

信頼の主治医

明日の医療を支える信頼のドクター

松橋耳鼻咽喉科・内科クリニック



「もっとめまいに悩む患者さんの役に立ちたい」と独立開業

最先端の医療設備を備え、最新鋭の医療体制を整備

めまい専門医として活躍する松吉院長は、平成9年に産業医科大学医学部を卒業後、同14年ま

平成28年4月に熊本を襲った震度7の巨大地震は県内各所に深い傷跡を残した。その後、国内外からの温かい支援により復興が進み、各地は徐々に元の姿を取り戻しつつある。そんな熊本の地で、近隣地域はもとより、県外など遠方からも患者が多数つめかけるなど、今現在患者から絶大の信頼を集めているクリニックがある。宇城市松橋町にある松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックだ。

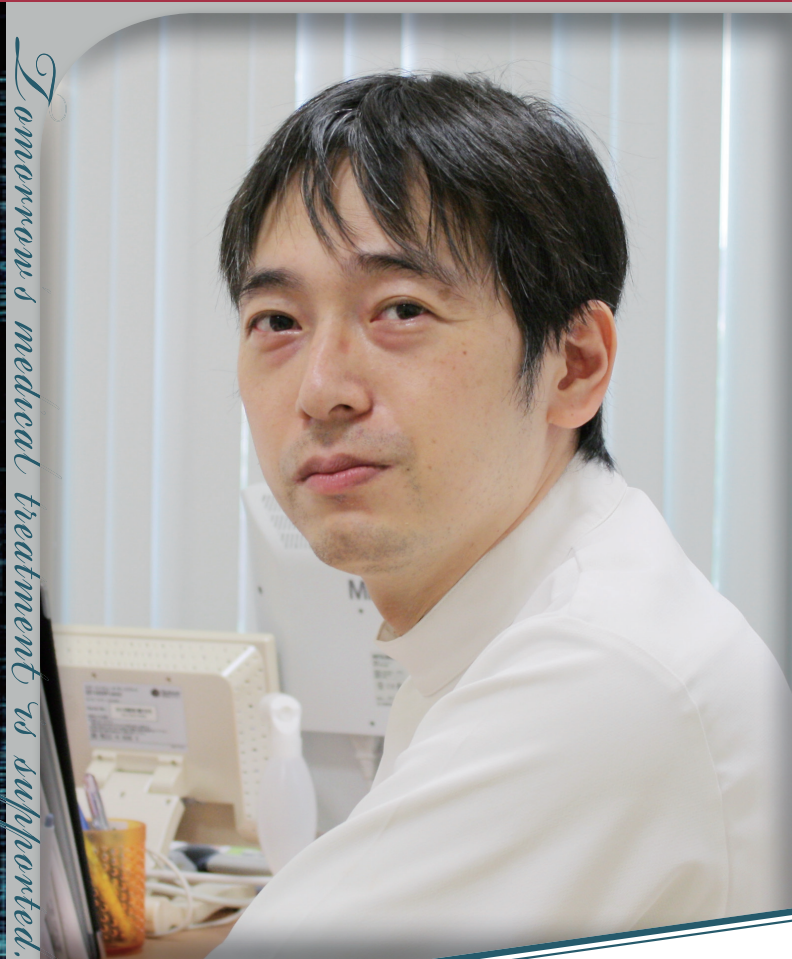
めまい、睡眠時無呼吸症候群、高周波や炭酸ガスレーザーによる鼻閉改善手術、腫瘍内科などの診療に対し、大病院に匹敵する最新鋭の検査機器、診療装置といった、最新の医療技術を駆使して診療に当たっている。

同クリニックの数ある診療メニューの中、めまい治療は特に力を注いでいる分野で、松吉秀武院長は県内で唯一の日本めまい平衡医学会認定めまい専門会員、めまい相談医の資格を有するスペシャリストだ。

「めまいの原因がわからず、あちこちの病院をさまよう、いわゆるめまい難民の患者さんが近年増えています。これは十分な専門知識を有する専門医が少ないためです。原因がわからずに不安な気持ちを抱えて悩んでいる患者さんは、ぜひ当クリニックに相談していただければと思います」と松吉院長は力強く呼びかける。

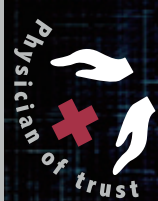
国内でも数少ないめまい専門認定医の資格をもつめまいのスペシャリスト

患者本位の診療をモットーに優しい医療を提供



Tomorrow's medical treatment is supported.

めまいは原因を特定するのが難しい病気で、正しく識別するには、知識と経験そして検査機械が必要です



松橋耳鼻咽喉科・内科クリニック

院長

松吉 秀武



めまいの検査に用いるメディテスター VOG とアエーカロリック装置

れる。もはや国民病ともいえるめまいだが、めまいに対する正しい知識を持つ人は意外と少ない。

ある日突然、目の前が回転するような激しいめまいに襲われると、私たちはなにか命に関わる重大なことが起きたのではないかと不安と恐怖心でいっぱいになる。「脳腫瘍かも」、「脳卒中が起きたのではないかと」、脳に原因があると思いがちだ。しかし、意外にも脳が原因のめまいは1割程度で、大部分のめまいは耳に原因があるという。

耳が原因のめまいの中で一番多いのは良性発作性頭位めまい症と言われるものだ。これは耳の中の三半規管のすぐ下の卵形嚢の中にある耳石（カルシウム製の小さい石のようなもの）と呼ばれる物質が、何かの拍子で三半規管の中に入り込んで起こる症状。

「耳石が三半規管の中に入り込むと、頭位変換によって、リンパ液の流れが誘発されて、実際には頭が動いていないのに、内耳から『動いている』という信号が送られ、めまいが起きてしまうのです」と松吉院長は説明する。

「めまいの症状は放っておいても自然に治ってしまうことが多く、命にかかわるものではない場合が殆どです。しかし、現状は十分に検査されることもなく、簡単な問診だけで『おそらくメニエール病でしょう』とあいまいな診断を下されるケースが多く見受けられます」



「めまいの疾患で大事なのは初診時の検査」

めまいは複雑で原因を特定するのが難しい病気

で産業医科大学耳鼻咽喉科で、研修医、専門修練医として勤務した。その後平成20年までの6年間は熊本大学病院耳鼻咽喉科で、一貫してめまい外来を担当して研鑽を重ねた。

松吉院長が独立開業を果たしたのは平成20年で、「自分が培ってきた知識や経験をいかして、めまいを専門にした診療がしたいと思いました。もっとめまいに悩む患者さんの役に立ちたいと独立開業を決意しました」と振り返る。

そこで、以前から馴染みのあった宇城市松橋町のきらら通りに、松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックを開業した。ガラス張りのひときわ目を引く建物は、1階の耳鼻咽喉科診察室に耳鼻咽喉科診察ユニット5台と、内科診察室、エコー室、心電図室、平衡機能検査室があり、2階にはCTレントゲン室、がん治療室を設けている。

院内には県内でも数台しかない「めまい検査機メディテスターVOG」をはじめ、「全身用16列マルチスライスCTスキャン」。さらにがんの温熱療法ができる「ハイパーサーミア」、がん治療と突発性難聴の治療ができる「高気圧酸素療法治療装置」、そして2020年4月から保険適応された、中耳加圧装置を用いた難治性メニエール病の治療を導入するなど、最先端の医療設備を備え、最新鋭医療体制が整備されている。「最新の設備を駆使してオンライン診察によるがん治療の相談、CPAP管理なども行っています」

厚生労働省の国民基礎調査によると、めまいに悩む人の数は全国で240万人を超えろといわ



がんや突発性難聴治療に用いる高気圧酸素治療装置

松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックでは、メディテスターV OGという最新の眼球運動計測装置を使用し、患者の目の動きのパターンを記録している。また、検査では赤外線CCDカメラも使用する。赤外線CCDカメラによる検査は暗闇の中で行うため、患者のわずかな目の動きもよくわかり、より正確な診断が可能となる。

実際クリニックでは、身体の前向きが強く、目の動きは斜め方向を向く、原因が耳からきているとは思えないような患者でも、CT撮影によって小脳腫瘍が見つかり、大学病院に搬送された例がある。また、目の動きは良性発作性頭位めまい症だったが、耳石置換法（耳石を戻す理学療法）を行っても結果が芳しくないため、MRIを撮って聴神経腫瘍が発見されたケースも。

このように、重篤な病の発見も見逃さずに特定できるのは、経験と知識を積んだめまいのスペシャリストがいること、最新鋭の設備が備えられているからに他ならない。



めまい診断で最も重要なのは眼球の動きをみること

豊富な経験、知識と最新鋭の設備で確かな診断

めまいの正体がわからない患者は不安が続くことから、自律神経の悪化などで、たとえ良性のめまいであっても症状が長引くこともあるという。

「めまいの疾患でまず大事なのは初診時の検査です。めまいの大半は良性ですが、中には脳腫瘍、脳出血など危険な病気が潜む可能性もあります。また、早期に治療すれば改善が期待できるメニエル病やめまいを伴う突発性難聴、前庭神経炎なども、正しく診断されずに放置されると、前庭機能代償の遅延化がおき、慢性化をきたし完治が難しくなるケースもあります」

めまいは、耳、脳、循環器などが原因で起こるものや、精神的なストレスなど心因性が原因で起こるものもある。めまいは複雑で原因を特定するのが難しい病気だけに、「正しく識別するためには、知識、経験、十分な検査機械が必要です」と松吉院長は強調する。

松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックの大きな特徴は、豊富な専門知識を持つ優れた人材を擁していること。そして最新鋭の検査機器、医療設備を備え、最先端の検査・診療体制が整っていることだ。院内には、開業医としては珍しく耳鼻科専門医が3人常勤し、うち2人はめまいの専門医。松吉院長自身も日本めまい平衡医学会認定めまい専門会員、めまい相談医でもある。

「めまい診断で最も重要なのは眼球の動きをみること。めまいが起きる時には、眼振という異常な目の動きが起こります。眼振が水平に動くと耳が原因の比較的安全なめまい、上下方向や斜め方向に動く場合は脳が原因の危険なめまいの可能性があります」



患者の待ち時間を短縮するため完全2人体制で診察

最初に眼振検査と聴力検査を行いCTは慎重に実施

常に患者の立場にたった診察を行う松吉院長が、診察を行う上で心がけていることがある。それは、「医療行為は医者が一方的に行うものではなく、患者さんに許容してもらって初めて成り立つものであり、患者さんの立場に寄り添うことを忘れない」というものだ。

「医師は患者さんに信頼してもらうことが大切です。耳鼻科は特に、耳に器具を入れ、細い吸引管で耳垢を除去したり、鼻に吸引管を入れ鼻漏を除去するなど、患者さんにとって不快だと感じる行為を伴うので、常に患者さんの目線にたって診察するようにしています」

松吉院長の、患者の負担にならないようにという思いは診療体制にもあらわれている。

通常、開業クリニックでは医師が1人で診察や治療を行うことが多く、そのために待ち時間が長くなる。しかし松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックでは待ち時間を少しでも短縮するために、当院常勤医である耳鼻咽喉科専門医3人をローテーションし、完全2人体制で診察を行う。

「病院やクリニックでの待ち時間の長さは、特に体調の優れない時などはかなりの負担になってしまいますから」と、患者目線での診療を徹底する。

また松吉院長は、「めまいを訴える患者さんが一般内科の初診検査で、頭部CTを受けるケースが多いですが、無駄な検査になっていることがほとんどです」と、現状を嘆く。

「激しいめまいに動揺している患者さんを落ち着かせるため、とりあえずCTを撮りましょうということだと思いますが、急性のめまいの大部分は良性の耳の疾患なので、頭部CTを撮っても意味がないのです」

CTは放射線の被ばくを受けることになり費用もかかるので、松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックでは、最初に眼振検査と聴力検査、さらにメディテスターVOGを用いて、視標追跡検査、視運動性眼振検査を行い、そのうえで中枢性病変が疑われる場合にのみ、頭部CTを撮るようにしている。

「当院でのCT検査は、インターネットの遠隔画像システムを利用し、放射線科専門医に画像を分析してもらうため、約30分という短時間で迅速・的確に結果をお知らせすることができます」



診察に追われる多忙な中で論文作成にも余念がない

医師としてこそぞという時には一心不乱に突き進む

松吉院長は、診察に追われる多忙な日々の合間をぬって論文作成にも余念がない。「たくさん患者さんを診てきた豊富な臨床経験を文章で残せるのは幸せなことだと思います。論文を発表するには、査読の医師の理解、承認を得ないといけないために自分自身の知見のレベルアップにもつながります。こうした研鑽がひいては患者さんに還元されると思い、日々の努力を怠ることなく頑張っています」

診療活動の中での論文作成は強い精神力と使命感が求められるが、こうした活動を実践する原動力はどこから湧いてくるのだろうか。

「私は幕末の英雄、吉田松陰の『死して不朽の見込みあらばいつでも死ぬべし。生きて大業の見込みあらばいつでも生くべし』という言葉が好きで、座右の銘としています。これは死ぬことによって志が達成できるならば、いつ死んでも良い。生きていることで大業の見込みがあれば、

2020

松橋耳鼻咽喉科・内科クリニック

松吉 秀武 (まつよし・ひでたけ)

昭和 47 年生まれ。熊本県出身。平成 9 年産業医科大学卒業。熊本大学大学院医学教育部・大学院生命科学研究部修了(腫瘍免疫について研究)。この間、平成 15 年から 1 年間日本学術振興会特別研究員(DC2)。産業医科大学病院 耳鼻咽喉科(研修医、専門修練医)、筑豊労災病院(飯塚市立病院)耳鼻咽喉科、熊本大学病院耳鼻咽喉科(助手、助教、病棟医長、外来医長)めまい外来担当などを経て平成 20 年、松橋耳鼻咽喉科・内科クリニック院長。

所属・活動

医学博士。日本耳鼻咽喉科学会・日本専門医機構認定耳鼻咽喉科専門医、日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医(厚生労働省補聴器適合判定医)、日本耳鼻咽喉科学会認定騒音性難聴担当医、日本医師会認定産業医、日本気管食道科学会認定気管食道科専門医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、日本めまい平衡医学会認定めまい専門会員、身体障害者福祉法第 15 条指定医、日本睡眠総合検診協会認定 CPAP 療養士、胃瘻造設時嚥下機能評価加算要件準拠(日本耳鼻咽喉科学会主催嚥下講習会修了)、九州・中四国ハイパーサーミア研究会世話人。

著 書

「専門医がやさしく教えるめまいの治療」(現代書林刊 2017 年)、「ステージⅣでも希望がもてるがん温熱療法+高圧酸素療法」(現代書林刊 2018 年)

所在地 〒869-0503 熊本県宇城市松橋町きらら 2-2-15
TEL 0964-33-4133
FAX 0964-33-0111
URL <http://www.matsubase-cl.com/>

アクセス JR 鹿児島本線松橋駅から徒歩約 18 分

設 立 平成 20 年 8 月

診療内容 耳鼻咽喉科、小児耳鼻咽喉科、内科、生活習慣病科、腫瘍内科



診療時間 **耳鼻咽喉科**
月～金曜 9:00～13:00 14:00～18:00
土曜 9:00～13:00 14:00～16:00
休診日 日・祝日
(月に 1 回、9:00-12:00 まで耳鼻咽喉科のみ日曜診療あり)
内科
月～土曜 9:00～14:00
休診日 日・祝日

診療メニュー 耳鼻咽喉科、めまい、内科、がん温熱療法、高圧酸素療法(がん、突発性難聴の治療)、小児耳鼻咽喉科、舌下免疫療法、保険外診療(自家がんワクチン療法、水素ガス吸入療法、超高濃度ビタミン C 療法)

います。そのような方の希望にそえるように、今後在宅診療なども考えていきたいです」
目を輝かせながら語る松吉院長。九州、熊本の地から松橋耳鼻咽喉科・内科クリニックの新しい挑戦はこれからも続いていく。



体を温めて免疫力を上げるハイパーサーミア

生きて成しとげれば良い。という意味の言葉です。私も自分の大業・使命がある限り、自分の命を最大限に使って生きていく、医師としてこそぞという時には困難があっても一心不乱に突き進んでいく。そういう気持ちで日々の診療に携わっています」
クリニックを開業して 12 年。めまい専門医として、ひたむきに第一線を走り続けてきた松吉院長には今後に向けた大きな夢がある。
「いつか病床をもったクリニックを開きたいと思っています。地域医療計画でクリニックが病床を持つことはなかなか難しいのですが、入院病棟を持ってめまいの患者さんにも入院してもらいながら詳しい検査を集中して行う。そして医師の下でリハビリ指導を行い自宅に帰ってもらうというのが私の理想とする診療の形です。また高齢化社会が進む中で、在宅で医療を受けたいと願う患者さんは増えてきて